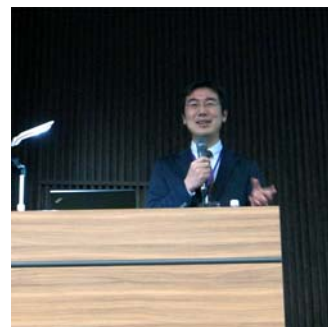


第二回血管生物若手研究会 報告

2016年3月4-5日の二日間、東北大学加齢医学研究所にて、第二回血管生物若手研究会を開催させて頂きました。本研究会は、昨年の第一回と同様に、血管生物医学会員の若手研究者が主体となって、会の準備、運営、開催に至るまでを自分たちで行うという形で開催されました。本研究会を企画する動機となった「日本でも海外に発信できる若手研究者を増やしたい」という目標のもと、第一回血管生物若手研究会よりも活発な会を開催することができました。

第二回目ということで、まだまだ模索段階ではありますが、第一回での教訓を生かし、自身の研究をアピールしていきたい若手研究者が一堂に会して、それぞれの研究推進のために発表および意見交換の場を提供する。」という趣旨の基、日本全国から多くの研究者に参加して頂きました。一般演題：25題、short talk：9題、教育講演：2講演と第一回同様の演題数が集まり、全員口頭発表の形式で、討論時間を充分にとり活発な意見交換を行いました。クローズの会であることに加えて、出席者が若手主体ということもあり、発表内容は挑戦的でレベルの高い物が多く、忌憚のない活発な討論が行われました。研究会の最後には、発表者全員による互選にて優秀発表者を選出しました。

また東北大学の佐藤靖史先生・岡山大学の狩野光伸先生による教育講演も行われました。佐藤靖史先生の講演では、佐藤先生が初めて血管内皮細胞を単離して血管研究を始めた当初のお話から Vasohibin の発見とその後のご研究の発展について Vasohibin の血管制御に関する研究のみならず、がん細胞における役割について最新のデータまでご教授くださり、さらに我々若手研究者に対して研究者としての心がけを熱く語って頂きました。狩野先生は血管を含む間質の調節による薬剤送達に関する最新のご自身の研究成果のお話だけでなく、学術会議に関連した研究を取り巻く周辺環境についてのお話に関してもご教授くださいました。さらに自身の研究成果をアピールすることの大切さを語り、日本の若手血管研究者に対して刺激を与えて頂きました。



最後になりましたが、本研究会は血管生物医学会の理事会および学術委員会の援助とご指導の下で開催することができ、ここに感謝申し上げます。まだまだ、会の進行などに反省点もございますが、ぜひ第三回以降も継続して開催していきたいと考えております。今回、ご参加を頂きました若手研究者の方々にもこの場を借りて感謝申し上げます。

(血管生物若手研究会事務局)



血管生物医学若手最優秀賞

村田 幸久（東京大学大学院農学生命科学研究科）

安藝 翔（金沢大学医薬保健研究域 医学系 血管分子生理学教室）

近藤 彩乃（東京大学先端研ゲノムサイエンス分野）

血管生物医学若手優秀賞

若山 勇紀（国立循環器病研究センター研究所細胞生物学部）

高瀬 悠太（京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 動物学教室 動物発生学学科）

岡田 欣晃（大阪大学大学院薬学研究科 生命情報解析学分野）

山川 大史（大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野）

山城 義人（筑波大学 生命領域学際研究センター）

山岸 寛（浜松医科大学解剖学講座神経機能学分野）

